

回答については、質問時の基準に沿って回答しておりますので、現時点とは異なっている場合もございます。

Q18（老人保健施設における対応、環境感染、消毒、標準予防策、職業感染予防策、滅菌、ノロウイルス、疥癬）

特別養護老人ホームです。以下の2点について質問致します。

1. 爪ブラシの設置について

当院では毎年手洗いの研修で、グリターバグを塗布しキットで洗い残しがないか確認をするという方法を行っています。その際どうしても爪の周囲が十分に洗えていないことが個々に周知され、各手洗い場に爪ブラシの設置の要望があります。そこで爪ブラシ自体の管理はどのようにしたら良いのでしょうか？そのままぶら下げておくのも細菌の宝庫になり、かえって不潔な気がします。

消毒・乾燥したものに置き替えるにしても、1階から3階までであるのでかなりの広いスペースと数にはなりますが、基本的にどのようなことに注意して管理していけば宜しいでしょうか？

2. スチームモップの使用について

当院は地下1階・地上4階建てで、床がフローリング・カーペット・Pタイルと3種類あります。清掃についてですが、100℃位のスチームがでるモップで拭くのは良くないのでしょうか？消毒液のスプレーは細菌やウイルスを舞い上がらせ、吸入毒もあるので行わないようにとの指導は受けていますが、同じ理由でスチームモップもいけないのでしょうか？

スチームは基本的に水を使用することと、瞬間的にかなり熱い蒸気が出るため、細菌やウイルスが舞い上がる前に死んでしまうのではないかと思います。使い勝手の良さもあり、嘔吐時など特にカーペットなどは、マニュアル通りにいくら次亜塩素酸を沁み込ませていても限界があり、また掃除自体も従来のモップの水拭きよりかなり効率よく合理的に思われるのですが、特にノロウイルスや疥癬の対応のためにも使用してみたいのですが、如何でしょうか。

A18

1. 爪ブラシの設置について

研修で、グリターバグを用いた手洗いの実施は有効と思います。しかし、手の荒れや皸などにより、確実に蛍光剤が除去できないことがあります。

手術室などでの処置がない場合、この洗い残しを爪ブラシで除去することは必要ありません。既に、速乾性擦式手指消毒剤（これ以降アルコール手指消毒剤とする）が導入されていれば石けんと流水での手洗いの後に、アルコール手指消毒剤を用いると効果的です。

但しノロウイルスの場合は、アルコールに抵抗性があるため、石けんと流水による手洗いと手袋の使用を勧めます。

2. スチームモップの使用について

熱消毒の効果は温度だけではなく時間が必要になります。下記の表1はウイルスの消毒について、表2は日本における熱水消毒の条件を記したものです。参考にしてください。

表1

| | |
|-----------------|--|
| エンベロープを有するウイルス | 熱水（80℃10分） 200～1,000ppm 次亜塩素酸ナトリウム液 |
| エンベロープを有しないウイルス | 熱水（98℃15～20分、多くの場合は80℃での10分） 500～1,000ppm（特別な場合には5,000ppm）次亜塩素酸ナトリウム液 |

回答については、質問時の基準に沿って回答しておりますので、現時点とは異なっている場合もございます。

表2

| 対象物 | 処理条件 |
|-------|------------------------------|
| 器具類一般 | 80℃10分間の熱水 |
| 鋼製小物 | 93℃10分間の熱水（ウォッシャーディスインフェクター） |
| ベッドパン | 90℃1分の蒸気（フラッシュャーディスインフェクター） |
| リネン | 80℃10分間の熱水（熱水洗濯機） |
| 食器 | 80℃10秒（食器洗浄器）、場合により10分間 |

床の清掃はノンクリティカルな場所となります。通常は、消毒は必要なく、埃などがないように清掃することに意味があります。通常の清掃にスチームモップを使用することに問題はないと思います。

疥癬の場合、湿拭での清掃が必要です。通常のモップの場合、清掃後に80℃10分の消毒が必要です。このスチームモップは使い捨てであるならば問題はないと思います。

ノロウイルスの場合は非常に少ないウイルス量でも感染力がありますので、表2の条件から「エンベロープを有しないウイルス」の対処方法を実施する必要があります。スチームモップの効果の検証がされていない現段階では安全性の保障はできません。

以下に参考文献を提示していますのでご確認ください。

参考文献

- 1) 小林寛伊、大久保憲、尾家重治：消毒・滅菌の実際。小林寛伊編集。[改訂]消毒と滅菌のガイドライン。へるす出版、東京、2004；8-35.
- 2) 小林寛伊、大久保憲、尾家重治：滅菌法。小林寛伊編集。[改訂]消毒と滅菌のガイドライン。へるす出版、東京、2004；103-123.
- 3) 第十四改正日本薬局方解説書。廣川書店、東京、2001.
- 4) 日本医科器械学会：医療現場における滅菌保証のガイドライン2000。小林寛伊編、日本医科器械学会監修。医療現場の滅菌。へるす出版、東京、2000；193-204.